

一般放牧 放牧の本格再開を目指して

一般放牧の実証は、5月23日、関根・松塚牧野利用組合の草地で始まりました。約2ヘクタールの草地を2区画に仕切り3頭ずつ、合わせて6頭を放牧し、傾斜地での放牧方法を確認していきます。

一歩一歩進んでいる感じはあるね。実証が順調に進み、放牧ができるようになれば、水田と畑地の両方でやってみたい。今は福島市飯野町の牛舎で繁殖牛を飼っているが、村の自宅の牛舎が完成したら、村で繁殖、飯野で肥育をやる予定。畜産一本でと考えている経営者の息子（豊さん）の構想です。ゼロからの出発ですから、この際、生まれも育ちも飯館の、正真正銘の「飯館牛」を目指して、品種の改良もやってみたいなあ。

安全性を確認し、さらには実証で得られた知見を生かして、農家の皆さんに、いろいろな可能性をお知らせしていきます。



放牧の実証に協力
山田猛史さん（関根・松塚）



復興対策課農政第一係
杉岡 誠 係長

なりわい農業 生きがい農業

春を迎えて、花や野菜を出荷用に生産する「なりわい農業」に取り組む人も増えていきます。昨年からの出荷を始めたカスミソウの生産組合には、20代・30代の新規生産者が加わります。

また、自家消費用の「生きがい農業」に取り組む人も、昨年度の160件に加えて、さらに70件ほどの申請が提出されています（5月25日現在）。新たに村内で農業を始め、事前に村復興対策課農政第一係までご連絡をお願いします。再開時に活用できる補助事業の紹介や、堆肥の提供なども行っています。

復興対策課農政第一係 ☎0244-42-1621

水田放牧 2年目の実証がスタート

松塚地区で、5月8日にスタートした水田放牧の実証。昨年に続く2回目の実証です。水田放牧は、当分使われない水田を放牧地として活用する新しい試みです。

松塚地区で、「水田放牧」「一般放牧」の実証が、およそ3か月の予定でスタートしました。これは、県畜産研究所による実証です。一定の条件下で放牧を行い、期間中に数回、草と土、さらには牛の血液の検査・測定を行います。

このうち水田放牧の実証は、昨年に続く2回目。前回の血液の測定値はND（検出限界値未満）という結果でした。今年は「一般放牧」（草地での放牧）の実証も合わせて行い、放牧の本格的な再開へ、安全で有効な方法を確かめていきます。

また二方、村内の牛舎で畜産を再開する動きも、少しずつ広がりをみせています。村内で畜産を再開する際は、県の指導・協力のもと、あらかじめ畜舎の清掃やモニタリング検査を実施します。また、3か月ごとの飼養状況の聞き取り訪問により、生産者は安心して飼養に取り組むことができます。

畜産の再開も 一歩一歩 着実に

牛飼いの再開のたより

5月25日、三坂光一さん（白石）の牛舎に牛が帰ってきました。避難の際に、猪苗代町の県畜産研究所沼尻分場に預けた雌牛1頭です。この牛は、村民が沼尻分場に預けた牛の最後の1頭だったということです。戻ってきた牛は、古い家を改修した牛舎につながれ、落ち着いた様子で飼料を食べ始めました。村内の牛舎で和牛の飼養を再開したのは、三坂さんが6人目です。※5月25日現在



2頭の雌牛を預けていましたが、1頭は出産時に亡くなったそうです。三坂さん（左から2人目）が「家族が帰ってきたね」と迎え入れると、母親の美枝子さん（左端）は涙をこぼしながら牛に語りかけました。「覚えてるかな。こっこ（仔牛）なすのが楽しみだな」

